

こども
みらい
風物詩

夏は一年の中で子どもたちが

一番待ち焦がれる季節だ。

灼熱しゅくねつの太陽のした

大好きな水たわむと戯れることができるから。

そして、友達や家族とつくる夏休みの

幸せな記憶の一つひとつが

子どもたちを育むはぐくむ

かけがえのない糧かてとなる。





S u m m e r

夏



麦わら帽子をかぶりボール通いをする子どもたちの夏。クワガタやカブト虫を誇らしげに自慢しあい、スイカをほおぼる。夏休みは、子どもたちにとって成長のときでもある。学校だけでなく、地域の人と一緒に言う夏休みならではの、さまざまな行事。そして、夏の夜に繰り広げられる花火大会や盆踊りなど、人と風土にふれることで、子どもたちは多くの発見と経験をjして、たくましく成長していく。夜のとばりがおりるころ、明日への飛翔を秘めて村は眠りにつく。



秋



山里は実りの秋を迎えて、鮮やかに
燃え立つ。山は粧よそおいをまし、楓紅葉かえでもみじ、
銀杏紅葉いちょうもみじが、錦を織おりなし、美しいふ
るさとの郷愁きょうしゅうを楽しませてくれる。
陽ひを染め、風を染めて通り過ぎる秋。
そして、時を越え、受け継がれてきた人々
のさまざまな伝統。空高く、秋祭りの
太鼓拍子たいこびょうしがどこからか響いている。





燃え立つ深紅、錦織りなす秋の訪れ。